資料５

9 月のフォーマルシーンについてのアンケートについて、取り急ぎご報告をさせていただきます。
今回ご協力いただいたのは、きものと帯、小物のメーカー、問屋、全国各地の小売店（北は山形、南は宮崎）、NC 本部、着付け教室など 30 社です。
たくさんの意見があって、それぞれの思い入れがあって、わたし自身とても勉強になりました。フォーマルというものは一番最初に学んだことが正解であるとそれぞれが思いがちです。わたしもそうでした。中でも驚いたのは、9 月の単衣の訪問着自体が NG で、9 月いっぱいは絽の訪問着を着るのが当たり前、という地域があったことです。全国にこんなにもたくさんの答えがあると判り、「正解をひとつにする」ということがいかに難しいかを知りました。

アンケートに寄せられた意見は以下の通りです。
……

（京都）
・東日本と西日本の差、都会と地方の差、着て行く場所、同席者の年齢層の差でかなり変わってくると思う。
・雨の多い、秋の立ち上がりの早い年と、残暑長引く年があり、体感重視。上旬はすごく暑い想定、下旬は朝夕は涼やか。体感重視、気分次第で選ぶ。
・住んでいる地域によって多少違ってくると思うが、絽や紗の袋帯は、お彼岸頃までは締めていいことにしている。袷の袋帯はお彼岸以降に。ただし白っぽい軽めの素材。
・絽や紗の袋帯、絽の半衿や帯揚げは、お彼岸まで。
・紗合わせは夏と単衣の間、単衣と夏の間のきものという認識。6 月 9 月はいずれも気候次第で着ていいように思う。
・夏帯は重陽の節句まで、と習ったが、最近の傾向としては 9 月いっぱいは OK なイメージ。ただ「先取りのお洒落」を考えると 9 月末に夏帯というのは、京都ではやや無粋。
・単衣のきものには夏帯を合わせるのが当然。9 月末まで夏帯。
・フォーマルは他の人との調和が大事と思う。調和させるならルールが必要であり、本音と建前なら建前で成り立っているもの。ただし、基本を知った上での崩しはカスタマイズ。
・小物は半衿と帯揚げをセットにして素材は揃えるべき。
・ 9 月下旬に夏帯は、先取りが命の京都ではありえない。
・着物検定の教科書と京都の実際はかけ離れている。
・基本的に「先取り」。秋分でわけている。
・季節の変わり目は判断が難しい。気温や天候で人のイメージは変わる。きも

のは決まり事が多くて大変だが、ファッションと一緒なので臨機応変で構わないと思う。

……

（東）

・8月20日までは透ける素材。お彼岸までは透けない夏素材で。

・紗合わせは初夏だけのもの。秋には着ない。

・夏のレースの帯締めは戦後からのものだが、「細ゆるぎ（3/4の細さのもの）」なら一年中使っていい。これが江戸の粋。単衣の時期から細いものを。

・日本列島は長く季節感も違う。本などで活字になっているものは東京や京都を中心に書いてある。桜前線の動きで考えると地域差がわかりやすいと思う。東京や京都では9月中は夏帯、東北なら9月上旬までと考える。このことを踏まえて、どこで着るのかを考えて選ぶ。

・最近の袋帯の素材は、単衣～袷時期に使用できるような素材のものが多いので、時期のみでくくることは困難。

・きものを着用している姿を見て、季節上暑苦しそう、寒々しい、などの感性を持って見ることがポイント、と店頭では紹介している。

・今は袷用の帯でも透け感があったり、夏用であってもあまり透けないものだったり、商品によってなので決められないところも多くなっている感じがする。なるべくハードルを下げて楽しんでもらいたい。

・・フォーマルは「季節の先取り」と「おもてなし」の文化である。6月9月単衣、7月8月夏物というルールは、せいぜい100年も経っておらず、日本古来の二十四節気とあっておらず、近年の気候の変化に対応していない。それよりも「季節の先取り」と「相手へのおもてなし」こそ大切。早目の先取りとその日の気温から見て、「無理をしている」「暑苦しい」と思われてしまうような装いをさけるべき。ただし、「おもてなし」は相手との関係性によって変わる。しきたりよりも、相手へのおもてなしの心のほうが、面倒だが大切。相手は一人ひとり違い、今日の気候もまた一期一会。

・比較的寒い地域のほうが、秋に向けての準備が早いと思っている。

・単衣の訪問着を持っている人自体が少ない。

・今はファストファッションで結婚式に参列する人もいるくらいなので、きものというだけできちんとした雰囲気になる。格に合ったきものであれば袷でも単衣でもよいのでは。

・「空調が効いているから袷でも大丈夫」とよく言われるが、ワンピースで出席している人に配慮して寒くないように高めに温度設定している式場が多い。

・きものの季節の着方は基本的に旧暦の着回しから来ており、それを無理に洋

服と同様に新暦に当て込んだので本来の気候と合っていない。
・紗合わせは大正時代の新橋芸者が東をどりの時期に着たことから流行したもので、一般の TPO に当てはめるのは難しいが、あえて現代の 9 月に当てはめるなら上旬のみ。
・紗合わせは夏物に近いという見方と、単衣よりも袷に近い（あくまでも袷だから）という見方がある。乱暴かもしれないが、もはや正解はわからない（最初から正解など無いのでは)。着たければ着るという感じでいいように思う。あと、自分のイメージでは紗合わせはフォーマルというよりも洒落ものが多いような気がする。
……

（西）※京都以外
・ 9 月の上旬は夏物でもいいが、中旬からは単衣のきものに小物は袷、と思っていたが、最近の暑さを思うと 9 月中夏物でもいいように思えてくる。
・お客様には夏物でもいいんじゃないか、とは言うが、自分が着るのであれば中旬以降は袷の帯に袷用の小物を選ぶと思う。
・堅苦しいことを言って着物なんて着たくない、と思われることが一番残念。季節を大切にすることはとても大事なことだが、今の時代、会場は空調も完備されているし袷の花嫁さん、親族がほとんどなので、袷の訪問着でもいいですよ、とお答えしている。着物大好きなお客様でも、単衣や絽の訪問着をお持ちの方は少ないのが現状。
・九州は 9 月も充分暑いので、ある程度夏仕様にしないと何も着る気にならないと思う。
・フォーマルは決め事の世界なのだろうが、それを決めたのはいつなのかが問題だと思う。昔はもっと涼しかったわけだし。
・ 9 月上旬はこの頃とても暑いので、8 月の名残の装いでよいのではと思う。9 月中旬以降でも暑いことには暑いが、秋に向かうので夏物ではないほうがいい。
・袋帯は「くし織」など単衣の時期に最適な軽めのものがあるので、そういうものがふさわしいと思う。
……

寄せられた意見は以上です。
きもの検定の教科書や、フォーマルを得意とする大手の専門誌が書いている内容とあまりにも乖離している、川上～川下までの意見が一致していない、というのが第一印象です。ルールでがんじがらめにするべきではないと考えますので、一致しなくてもいいものではあると思いますが、浜辺にいる消費者は混乱するだろうなと思います。この事実を知った上で、販売する側は消費者と対話をすべきだと思いました。　　2018 年 11 月 27 日　きくちいま

9月のフォーマル		上旬			中旬			下旬		
		○	×	無回答	○	×	無回答	○	×	無回答
着物	単衣の訪問着	97%	3%		97%	3%		97%	3%	
	紗合わせの訪問着	93%	7%		57%	43%		37%	63%	
帯	夏かがりの綴帯 ※お太鼓部分が縫い合わされていないもの	87%	3%	10%	77%	13%	10%	63%	27%	10%
	絽や紗の袋帯	93%	7%		60%	40%		37%	63%	
	袷用の袋帯	40%	60%		67%	33%		87%	13%	
	秋柄の袋帯（袷用）	47%	53%		73%	27%		93%	7%	
小物	絽の半衿、帯揚げ	97%	3%		67%	33%		30%	70%	
	袷用の半衿、帯揚げ	27%	73%		70%	30%		83%	17%	

2018年6月～7月　きくちいま調べ

	9月のフォーマル			
	上旬	中旬	下旬	
	○×	○×	○×	備考
単衣の訪問着				
紗合わせの訪問着				
夏かがりの綴帯				
絽や紗の袋帯				
袷用の袋帯				
秋柄の袋帯（袷用）				
絽の半衿、帯揚げ				
袷用の半衿、帯揚げ				

アンケートにご協力ください！！

こんにちは、きくちいまです。いつもありがとうございます。
先日ファンの方から、紗合わせの訪問着を9月に着ていいか、帯は何を合わせるのが正解か相談を受けました。わたしの思っていた正解と、着物検定の教科書の内容も微妙に違い、周りの人に聞いてみても答えは様々です。
現実としては、袷の留袖を着て真夏の結婚式というケースもあるわけですし、厳密にはルールというものがあってない状態になっていますが、現状を知りたいと思っています。
お忙しいところ恐れ入りますが、アンケートにご協力ください。よろしくお願いいたします！

下記の一覧表に〇×を書き込んでください。やむを得ない場合は△も可とします。

	9月のフォーマル		
	上旬	中旬	下旬
単衣の訪問着			
紗合わせの訪問着			
夏かがりの綴帯※			
絽や紗の袋帯			
袷用の袋帯			
秋柄の袋帯（袷用）			
絽の半衿、帯揚げ			
袷用の半衿、帯揚げ			

※夏かがりの綴れ帯とは、お太鼓部分が縫い合わされていないもの。

こんにちは、きくちいまです。いつもありがとうございます。
先日、あるファンの方から相談を受けたのですが、わたしの思っていた正解が、実はそうでもないと気づいてしまいました。
皆さんならどう答えますか？お時間のあるときにで結構ですので、教えてください！
尚、6月30日（土）までにFAXかメールにてお答えいただけると助かります。

★相談内容「9月上旬に行われる友人の結婚式に訪問着を着て行きたいが、帯は何を合わせたらいいのか」
持っているもの：単衣の訪問着（紋なし）、紗合わせの訪問着（紋なし）、絽の袋帯、袷用の袋帯、白地に刺繍の袋帯

わたしが「正解」と思い込んでいた内容				教科書的なもの				Aさんの場合			Bさんの場合					
	9月			9月				9月			9月			9月		
	上旬	中旬	下旬	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上旬	中旬	下旬
単衣の訪問着	○	○	○	○	○	○	単衣の訪問着	○	○	○	○	○	○			
紗合わせの訪問着	○	×	×	○	○	○	紗合わせの訪問着	○	×	×	○	×	×			
							夏かがりの綴帯	○	○	○	○	○	○			
絽や紗の袋帯	○	○	○	○	○	○	絽や紗の袋帯	○	○	×	×	×	×			
袷用の袋帯	×	×	×	×	×	×	袷用の袋帯	×	×	×	○	○	○			
							秋柄の袋帯（袷用）	×	×	○	○	○	○			
絽の半衿、帯揚げ	○	○	○	○	○	○	絽の半衿、帯揚げ	○	○	×	○	×	×			
袷用の半衿、帯揚げ	×	×	×	×	×	×	袷用の半衿、帯揚げ	×	×	○	×	○	○			

※夏かがりとは、お太鼓部分が縫い合わされていないもの。

ご意見等

きくちいまとしては、「うわぁ、フォーマルめんどくさい！じゃあ着物やめて洋服にしよう……」となってもらいたくありません。
とはいえ、ある程度の正解は必要……。フォーマルの決まりはこういう感じですよ、と基本がわかった上での、気候や体調、もしくは
所有しているものの兼ね合いで、多少の変化、ゆるぎ、ゆとりはあっていいと思うのです。
今回のことで、フォーマルはこうだ！と思い込んでいた自分に気が付きました。喪服のように、地域性などもあるのかなと思います。
なのでこの調査は、フォーマルはこうである！と決めつけるものではなく、いろんな考えがあるんだよ、というものにしていきたいなと思っています。
ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

九月の披露宴にはどの帯を?

知り合いのお嬢さんがお友達の結婚披露宴に振袖を着ようとしたら、一緒に参列するお友達に止められたというのです。その理由が「花嫁さんより目立つと悪いから」。あんぐり。あのな、プロのヘアメイクなめんなよ。どんなに参列者が着飾ったって花嫁には負けるから安心しろ……と言いたいのを我慢して「え〜もったいない!」とだけ言いました。振袖でも訪問着でも、結婚式に着て行けば雰囲気が断然よくなって格も上がり、あらすてきなお友達がいるのね!と花嫁の株も上がるというもの。夏だとしても、式場の空調は完璧ですから袷でもいいと言われています。花嫁衣裳だって大抵が袷仕立てなので、安心して着てほしい〜。

実は最近、友人の結婚披露宴にこれを着たいと思っているのですがどうですか?と相談を受けました。式は九月、きものは紗合わせで萩の柄。帯は何を? 半衿と帯揚げは?

紗合わせは五月の下旬に着るものと思い込んでいたので、知り合いにも聞いてみました。ちょうどこの六月にわたしも従兄弟の披露宴があり、単衣の訪問着に絽の袋帯で参列してきたばかり。でも、いろんな方に聞けば聞くほど、「九月ならば帯は本来冬物にしなければいけない」、紗合わせに至っては「六月はいいけれど九月はNG」という答えもあって、ええっ、わたしが今まで信じていたことは何だったの?と足元が大きくぐらついたようになりました。

それならばと○×式にした一覧を作成し、きものプロたちにFAXを送りました。きものや帯、小物のメーカー、百貨店も含めた小売店、着付け教室など合計30件。まだ回答は出揃っていませんが、驚くほどばらばらで、「きもの検定の教科書にある内容に物申したい」という方まで現れました。

九月というのは実は帯と小物の組み合わせが一番ややこしい季節。だからこそいろんな回答が出てきたのだと思われます。共通して多かったのは、備考欄に書かれた「きまりはあるけれど、正解はない。どんどん着て欲しい」、「九月は暑い。今後変わっていくべきだろう」でした。

一番嫌なのは、いろんなしきたりが交錯しすぎて、結婚披露宴に着たいと思っていた人が面倒になって、じゃあきものや〜めた! 洋服にしちゃおう、と諦めてしまうことです。わたしは、ぜひともきもので参列してほしい!

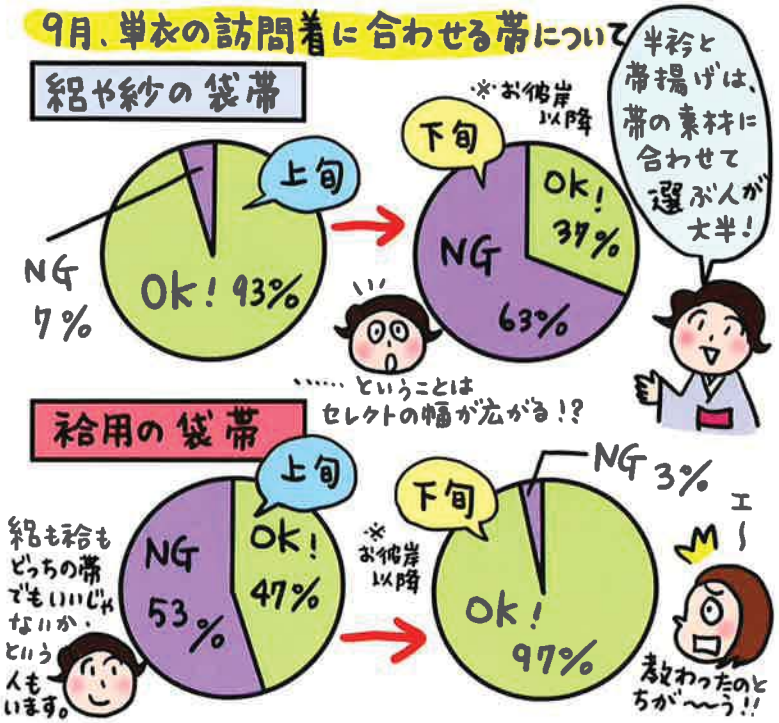
基本を抑えた上で、気候や体調、もしくは所有しているものとの兼ね合いで、多少の変化は大いにありじゃないかと思います。回答が揃ったら、また改めて報告しますね。ご意見も募集しています。

きくちいま　きものが身近にある暮らしを綴るエッセイスト兼イラストレーター。「きくちいまが伝えたい　40代からの新・着物生活（実業之日本社）」など著書多数。一九七三年生まれ。山形県在住。imappage.net

きくちいまの「きものの引きだし」

Vol. 157

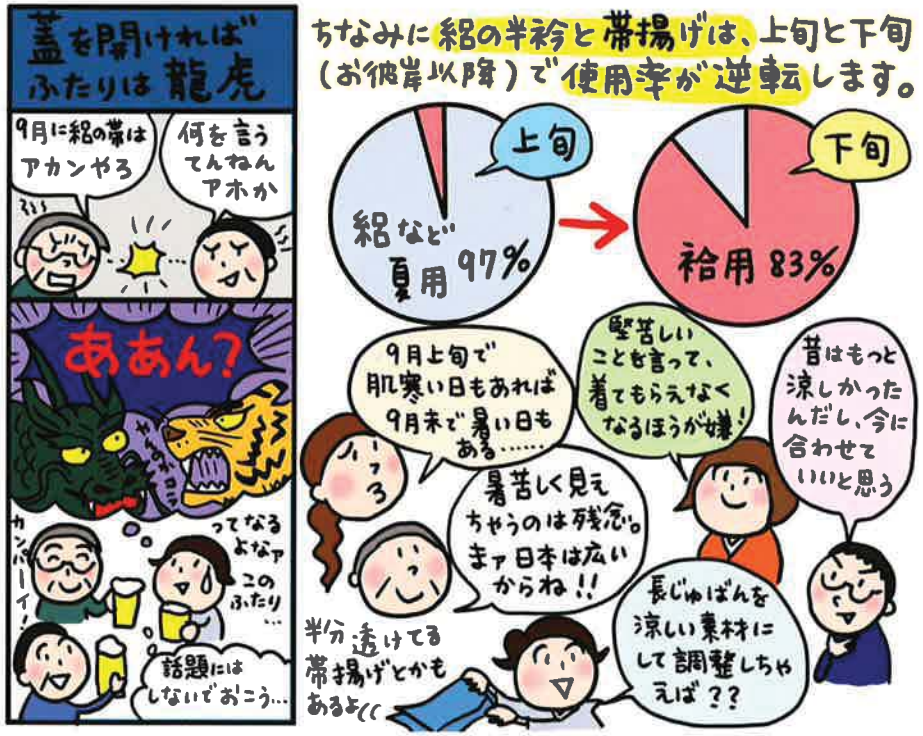
九月のフォーマル



前号で九月の単衣に合わせる帯と小物について書きました。全国各地の小売店やメーカー等のご協力によって回答が出揃い、数値化しましたので報告いたします。正直、ここまで答えが入り乱れるとは思っていませんでした。「正解」ではなく「傾向」を知る上での参考にしてもらえたらと思います。もう好きなように着なされ、と言いたいのを我慢してまじめに分析すると、現実は教科書通りではないということがわかりました。教科書というのは、検定のテキストや大手専門誌という意味です。

「きものは季節先取り」という文化も一部の地域では全く関係がなく、九月末でも単衣は着ずに紹を着るのが当たり前、というところもありました。また、紗合わせに関しては、検定のテキストでは単衣と同じ扱いになっていますが、九月なら上旬のみ、と答えた方が多く、さらに、「紗合わせは初夏限定、秋には着ないもの」という意見や、「大正時代の新橋芸者が東をどりの時期に着たことから流行したもので一般のTPOに当てはめるのは難しいが、あえて現代の九月に当てはめようとするならば上旬のみ」という意見もありました。

「現代のルールは近年の気候の変化に全く対応していない」とばっさり斬る大御所の言葉は小気味よく、どこよりも厳しいルールの中に住んでいそうな京都の老舗が「実



際は体感重視、気分で選ぶ」と漏らしてくれた本音も嬉しかったです。帯に関しては、同じ京都でも「季節先取りが命、お彼岸以降に夏帯は無粋」という大半の意見の中に、「夏帯を合わせてこそ単衣」という少数派の意見が存在することもわかりました。こうなるといっそ正解なんてないほうが平和です。また、最近の袋帯は透け感の有無や織り方の違いで、単衣から袷の長い期間に結べるものがあることも知りました。時期のみで帯をくくることも難しくなっているようです。

今回ハッとしたのは「基本を知った上での崩しはカスタマイズ」という心強いメッセージと「空調が効いているから袷でも大丈夫とよく言われるが、薄手のワンピースの人に配慮して冷房を高めに設定している式場が実際には多い」という生の意見。実際に着て出かける人のことをリアルに想像できなければ「正解」はただの押し付け。一番大事なのは、嬉しいものをまとって、いい時間を過ごすということに行きつくと思うのです。

というところに友人から結婚式の招待状が届きました。日付は十月。九月末だったら一体何をどう組み合わせただろう……。いやぁ勉強になります。

きくちいま　きものが身近にある暮らしを綴るエッセイスト兼イラストレーター。「きくちいまが伝えたい　40代からの新・着物生活（実業之日本社）」など著書多数。一九七三年生まれ。山形県在住。imappage.net